

先週の回答



毎年、時期になると、村上春樹が今年こそはノーベル文学賞を受賞しますようにと、集まって祈願する族（やから）が理解できない。

村上春樹という作家の心の内は知らないが、もし彼がノーベル賞を欲しがっているとしたら、哀れとしか言いようがない。そんなもの眼中にないというなら、さすがは優れ者と思うが。

そもそも、賞などというものは、一体誰が決定するのか疑問である。

アカデミー賞のように商業主義に徹して、観客動員数や人気度で決めるものは、『好きになさったら』と許せるが、ノーベル賞は何を基準にしているのかイマイチ解せない。しかも受賞者が大よろこびをして土下座をしないと腹を立てるの

てるのが理解できない。

ボブ・デュランというフォークソングの神さまと言われた人が受賞に決まったとき、本人が大喜びしなかったのを無礼だとコメントした、ノーベル賞運営委員だとかの愚か者に、お前は何様なんだ！と言いたい。

勝手に決めて、決められた者は大喜びしてはしゃぎ回らなくてはいけないとは、滑稽であると思いませんか？。

特にノーベル賞のような世界的な賞になると、与える方は、乞食に恵んでやる感覚になるようだ。

そんなもん、なんぼのもんじやという人が出てきて欲しい。で、思い出すのが、山本周五郎という昭和の作家。彼は直木賞を辞退した。曰く、

「自分は、そのようなものをもらっても仕方がない。わたしの作品は少しでも多くの人を読んでくれて、楽しんでくれればそれで十分。それ以上の賞はないと思うので、直木賞とやらは結構です」に、わたしは感動して拍手をおくった覚えがある。

やたら勲章を欲しがるのは、わからなくもないが、勲章を授与された意義よりも、ぶら下げて悦に入っているのがいただけでない。

貰えない者のヒガミに聞こえるかも知れないが、ノーベル賞、ノーベル賞と騒いでいる連中の頭はノーベル傷ではないかと思いませんか？。

信賞必罰とは、功績のあつた者に賞を与えて褒め、罪を犯した者には罰を与えることであるが、アタマに「けじめをつけ厳正に処理する」さらに「情実にとらわれず」がつくことを忘れてはいけない。



